

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童通所支援事業所 まなびや結		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 22日		～ 2025年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21世帯	(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年 2月 22日		～ 2025年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・自立に向けたカリキュラムの構成をしている (ライフスキルトレーニング・SST等)	・年齢に応じた必要スキルを組み立て、活動に取り入れながら習得出来るようにしている。	・活動等で行った内容をご家庭でも行うよう協力を頂きながら習得出来る様にしていく。
2	・年齢や発達段階に応じた認知プログラムを提供している。	・毎月1回担当者支援会議を行い プログラム内容や到達目標の変更を行っている。	独自の療育プログラムの評価基準表などを作成し全ての指導員が課題提供の選択を円滑にできる様な方法を取り組む。
3	・児童のやってみたいことを他児に提案し企画から実施まで活動として行っている	・土曜日や長期休みでは、児童が企画し時刻表を調べるところから始めJRやバスでのお出かけ、高校生は就労支援事業所や一般企業を調べ見学に行くなど将来の見通しが持てるよう工夫している。	・高校進学後のバスでの移動や、事業所卒業後の就労選択の場面で自分で調べ自己選択、自己決定出来るよう日々の活動で取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	指導員のキャリアや能力の差がある。 また、高校卒業後の就労について知識がある職員が少ない。	有資格者の確保が難しく 療育現場未経験者が多い。	打合せの時間を十分に取り 指導係とペアで療育対応しながら実務経験を積んで頂ける体制を整える。 事業所内での症例検討会の機会を増やし 対応方法について其々が考える機会を設定する。
2	現場の状況に応じて 臨機応変な対応に切り替えられる職員が少ないため その都度 確認や指示が必要になりその時の流れやテンポが崩れることで 児童の向き合う意識が削がれることがある。	一人ひとりの児童に対して関わり方や活動内容での意図や目的を共通認識になっていない。	小集団の中で何を優先し何を大事に伝えていくのか？各職員が共通認識が持ちスキルアップできる様に症例検討会や実践研修会の機会を増やして行く。
3			